

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
255	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol Consumption by Women Before and During Pregnancy. 女性における妊娠前および妊娠中の飲酒	
執筆者	
Ethen MK, Ramadhani TA, Scheuerle AE, Canfield MA, Wyszynski DF, Druschel CM, Romitti PA; National Birth Defects Prevention Study.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Matern Child Health J. 2008 Mar 4. [Epub ahead of print]	
キーワード	
飲酒、妊娠女性、女性、有病率	
要 旨	
<p>目的： 米国における妊娠前および妊娠中の飲酒の頻度、パターン、関連要因を明らかにする。</p> <p>方法： 全国先天障害予防研究において 1997-2002 年に先天障害のない児を出産した無作為抽出された母親 4,088 人を対象に、コンピューター利用電話質問調査により、飲酒、妊娠その他のデータを調査した。飲酒率およびオッズ比を算出した。</p> <p>結果： 全ての女性のうち 30.0%が妊娠中の飲酒した経験があり、8.3%が過剰飲酒 (1 回に 4 drink 以上) を報告した。飲酒率は妊娠 1 ヶ月から低下し 22.5%であった。2.7%が妊娠の全期間飲酒しており、7.9%が妊娠後期に飲酒していた。妊娠前の過剰飲酒は妊娠中の飲酒および妊娠中の過剰飲酒の強い予測因子であった (それぞれ、調整オッズ比 8.52 [95%CI 6.67-11.88]、36.02 [95%CI 24.63-52.69])。そのほかの関連要因には非ヒスパニック白人、妊娠中の喫煙、望まない妊娠があった。</p> <p>結論： 本研究において、妊娠中の飲酒は比較的頻度が高かった。妊娠前に過剰飲酒をした女性は、妊娠中の飲酒リスクが高かった。性的に活動的で飲酒する妊娠可能女性では、妊娠の予防、妊娠計画および妊娠前の飲酒中止の方法をアドバイスするべきである。</p>	